

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (現2年) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができた。
- (現3年) 自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことができた。
- (現4年) 読み取ったことを自分の言葉で表現することができるようにするために、話型を提示して、表現の仕方を身に付けられるようにすることが、「話すこと・聞くこと」の向上につながったと考えられる。
- (現5年) 文章を書く際に、話の中心が明確になるよう話の構成を示すことができてきた。
- (現6年) 内容や場面の流れを読み取る力がついてきた。

(2) 課題

- (現2年) 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することに課題が見られる。
- (現3年) 叙述を基に文章の内容を読み捉えることや、登場人物の様子を捉えることに課題が見られる。
- (現4年) 情報と情報の関係について理解して自分の考えを明確にして書くことや、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く技能に課題が見られる。
- (現5年) 叙述を基に文章の内容を捉えることや段落の関係、漢字を書くこと等の知識技能の定着に課題が見られる。
- (現6年) 話し合いや資料を基に重点を整理して書くことや、基本的な漢字の読み書きの定着に課題が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	問題全体の校内平均正答率は、前年度よりも0.8ポイント、目標値を0.2ポイント下回った。「基礎」は、目標値を1.4ポイント下回ったが「活用」は2.5ポイント上回った。領域別にみると、「情報の扱い」は5ポイント、「言葉の特徴」は3ポイント、「書くこと」は、1.2ポイント下回り、「話すこと・聞くこと」の領域は5ポイント、「読むこと」は、0.9ポイント上回った。	問題全体の校内平均正答率は、13.6ポイント上がった。目標値よりも2.2ポイント上回っている。特に、「書くこと」の領域において、目標値を3.2ポイント上回っており、昨年度よりも28.8ポイント上がっている。目標値よりも下回っている領域は「読むこと」の領域で、0.5ポイント下回っている。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも3.4ポイント下がった。主に記述問題が大きく目標値を下回っている。領域別にみると、言語事項、読むこと、書くことに関する問題の中に、正答率が大きく目標値を下回っているものがある。
第5学年	問題全体の校内平均正答率は、昨年度より4ポイント下がった。ただし、目標値よりは3.4ポイント上回っている。「活用」問題については、9.5ポイント上回っている。また、「話す・聞くこと」においては、昨年度よりも12.5ポイント、「言語事項」は、10ポイント下回っている。	問題全体の校内平均正答率は、0.1ポイント下がった。目標値よりも5.7ポイント下回っている。ただし、目標値よりも「情報の扱い方の事項」は4.5ポイント、「言語事項」は7.6ポイント上回っている。また、目標値よりも「書くこと」は9.8ポイント、「読むこと」は8.1ポイント下回っている。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも1.4ポイント上がった。領域別にみると、言語事項、読むことに関する問題の中に、正答率が大きく目標値を下回っているものがある。
第6学年	問題全体の校内正答率は、昨年度より2.8ポイント上がった。ただし、目標値よりも1.7ポイント下回っている。領域別にみると、「言語事項」、「書くこと」に関する問題において、正答率が目標値よりも5ポイント以上下回っている。	問題全体の校内正答率は、5.2ポイント下がった。目標値よりも4.3ポイント下回っている。ただし、言語事項においては、昨年度よりも13.2ポイント上がっている。領域別にみると、「情報の扱い方の事項」では13.7ポイント、「書くこと」では12.9ポイント、目標値よりも下回っているものがある。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも0.9ポイント下がった。ただし、今年度の目標値よりも0.5ポイント上回っている。領域別にみると、言語事項、書くことに関する問題の中に、正答率が大きく目標値を下回っているものがある。

(2) 分析(観点別)

各問題の正答率や誤答の状態を基に行った分析は、以下の通りである。

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◎4年生は国語辞典の使い方、漢字のへんとつくりについて理解している。</p> <p>△漢字やローマ字を正しく読みだり書いたりすることは、不十分である。</p> <p>△主語と述語の関係について理解することや、様子や行動を表す語句の習得が不十分である。</p>	<p>◎書く領域においては、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことができている。</p> <p>△叙述を基に、登場人物の様子について捉えることや、段落の内容を捉えることが十分に身に付いていない。</p>	<p>◎文章を読んで想像したり書いたりすることには、意欲的に取り組んでいる。</p> <p>△漢字や語句の練習や短文作りに主体的に取り組むことができないため、全体的な語彙量が少なく、読み取ったことを表現することが難しくなっている。</p>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>5年</p> <p>◎漢字の読むこと、説明文の要約の技能については、おおむね習得できている。</p> <p>△連用修飾語についての理解ができていない。</p> <p>△漢字を正しく書くことにおいての技能が十分に身に付いていない。</p> <p>6年</p> <p>◎和語・漢語・外来語についての理解がおおむねできている。</p> <p>△文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使う技能が十分に身に付いていない。</p>	<p>5年</p> <p>◎話し合いの内容を聞き取ることに、話し手が伝えたいことの内容を捉えることができている。</p> <p>△説明文の内容や段落相互の関係を捉えて、文章を書いたり読み取ったりすることが十分に身に付いていない。</p> <p>△文章を書くことにおいて、指定された長さで書くことが十分に身に付いていない。</p> <p>6年</p> <p>◎話し合いの内容を読み取ることに、理解がおおむねできている。</p> <p>△必要な内容を盛り込んで記述できていない場合が多いため、正答に必要な情報が何か、捉えられていない。</p>	<p>5年</p> <p>◎漢字の読みにおいては、主体的に取り組むことができている。</p> <p>△漢字の書きにおいては、主体的に取り組むことができていないため、全体的な語彙量が少なくなり、表現することが難しくなっている。</p> <p>△文章を書くことに、主体的に取り組むことができないため、指定された文字数で作文ができなかったり、自分の考えを書いて伝えたりすることが難しくなっている。</p> <p>6年</p> <p>◎言葉の学習において、主体的に取り組むことができている。</p> <p>△漢字の読み書きにおいては、主体的に取り組むことができていないため、読むことや書くことへの苦手意識ができ、表現力が乏しい。</p>

3 授業改善のポイント(観点別)

(1)低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 朝学習, 授業で漢字ドリルやタブレットを活用し、平仮名や漢字の定着を図る。 説明文や物語文の内容を捉える学習において、言葉や文末表現を取り上げ語彙力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み取りで学習した文章表現を自分で使えるように、話型を提示して文章を書く活動を取り入れる。 叙述や挿絵をもと登場人物の様子を捉えさせ、イメージをもったうえで音読表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のはじめに学習のめあてをもち学習計画を明確にするなどして見通しをもたせる。 単元のふりかえりでは、学習で身についたことを確かめられるようにする。

(2)中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習をもとにして、様々な短文を書いたり、読んだりする学習を増やしていく。 主語、述語、目的語などの文を構成する要素を入れて書く練習を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書き込みや線引きをして、段落の関係や言葉の意味を確かめながら読みとりを行う。 目的を明確にした読みの活動を行い、叙述をもとに意見交流を行う。 発表の前に、考えを文にまとめる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のめあてを明確にして学習活動を行い、ふりかえりでは学習を通して付いた力を振り返る。 言葉を使った活動や発表の機会を増やし、言語活動の楽しさを感じられるようにする。

(3)高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 朝学習では、漢字ドリルや漢字プリントなどで、復習する時間を設け、定着を図る。 目的や意図に応じて自分の考えや明確に伝えられるようにする。また、新聞づくりなど、複数の情報を関連付けて活用できるような言語活動を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の学習では、気持ちを表す言葉を授業で取り上げて、文章を読み取ったり書いたりする際に確認していく。また、筆者の考えの根拠となる文にサイドラインを引かせて、必要に応じて引用させるなど、考えの根拠となる表現を明確にさせる。 説明文の要旨に対する自分の考えや、物語文の主な登場人物に対する感想など、定期的にまとまった量の文章を書く学習活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のはじめに学習を通して付ける力を明確にし、見通しをもたせて取り組ませていく。 学習の振り返りや感想を聞く機会を設け、自分の考えを文章に書いて表現する経験を積み重ねさせる。